

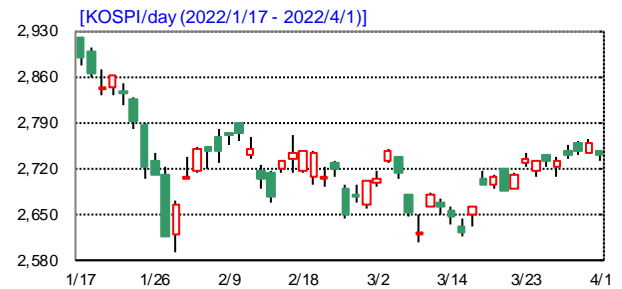


【韓国】 総合指数は週間で0.4%高と3週続伸、今週も神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.4%高と3週続伸。週を通じて狭いレンジでもみ合う展開が続いた。週明け3月28日は中国の上海市が都市封鎖（ロックダウン）に踏み切ったことなどが嫌気され、小幅に下落。29-30日はロシアとウクライナの停戦交渉が進展するとの期待から買いが広がった。31日はバイデン米大統領が石油備蓄の放出を検討していると伝わり、インフレ圧力が緩和するとの見方から3日続伸した。ただ、中国の景況感悪化などが嫌気され、上値は重かった。4月1日はウクライナ情勢や景気後退が警戒される中、週末を前に利益確定の売りが広がって4日ぶりに反落した。今週は6日にFOMC議事録が発表される予定で、米国の金融政策などをにらんで神経質な展開か。国内では5日に3月のインフレ率が発表される。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は週間で24.6%高と急反発、今週は原油相場が焦点か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で24.6%高と急反発。主力株への押し目買いとルーブル高を受けて急反発した。週明け3月28日は前週末比0.8%安と3日続落となったが、ロシアとウクライナの停戦交渉進展への期待やルーブル高を受けて29日から31日まで3日連続で7%超の上昇。1日も1.2%高と4日続伸した。原油相場が大幅に反落し、31日に空売り禁止が解除されたものの、主力株への押し目買いが優勢だった。ルーブル建てのMOEX指数が11.1%上昇し、ルーブルが対米ドルで13.7%上昇したことで、米ドル建てのRTS指数の上昇率が高まった。個別ではエネルギーのロスネフチ、スルグトネフテガス、ガスプロム、金融のズベルバンク・オブ・ロシアが2桁高。今週はウクライナ情勢と原油相場をにらんでもみ合いか。

▼指数チャート



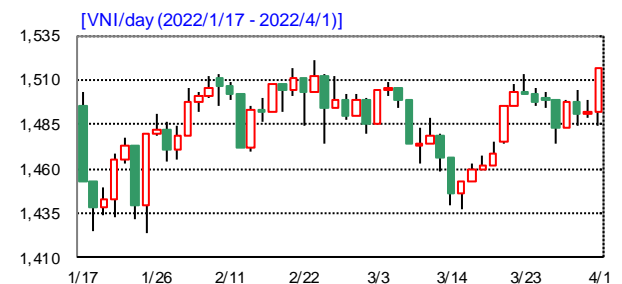
【ベトナム】 ベトナム指数は週間で1.2%高と3週続伸、今週は引き続き底堅い展開か

開か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で1.2%高と3週続伸。主力大型株が上昇し、指数は7営業日ぶりに1500ポイントを回復した。利益確定売りや押し目買いが交互に強まるボラティリティの高い動きが続いたが、1日は主力株が軒並み高となり、指数を押し上げた。VN 指数は週明け3月28日に前週末比1.0%安となり、29日は1.0%高と反発。30日は再び0.5%安と反落したが、31日に0.1%高と反発し、1日は1.6%高と続伸した。指数は1516.44ポイントで引け、3月23日以来、7営業日ぶりに1500ポイントを回復して終えた。個別銘柄ではコングロマリットのFPTが16.0%高、家電小売りのモバイル・ワールド・インベストメントが12.3%高となり、食品加工のベトナム・デイリー・プロダクツは8.6%上昇した。今週は引き続き底堅い展開か。

▼指数チャート

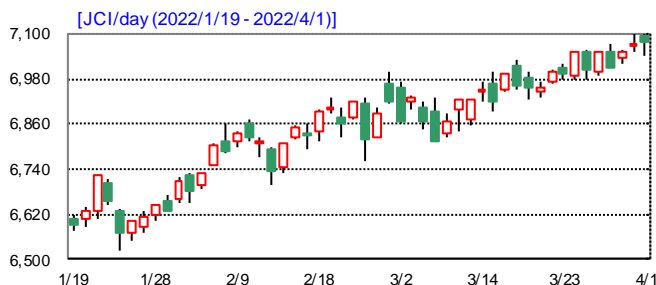


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.1%高、30-1 日の終値は 3 日連続で過去最高値更新

ジャカルタ総合指数は週間で 1.1%高と 3 週続伸。3 月月間では 2.7%高。先週は好地合いが続く中、じりじりと上値を広げた。週初の 28 日は前週末に下落した反動で買い戻されたが、29 日は新型コロナウイルスの感染拡大を受けて上海で都市封鎖が始まったことが売り材料視されて反落。一方、30 日はウクライナ情勢の緊張緩和で前日の NY ダウが上昇した流れを引き継ぎ反発し、指数は終値で 4 日ぶりに過去最高値を更新した。週後半も上値追いが続き、1 日まで 3 日続伸して引けている。1 日に発表された 3 月の CPI 上昇率は 2.6%と 20 年 4 月以来の高水準となった。今週も外部要因が指数を左右する展開か。

▼指数チャート

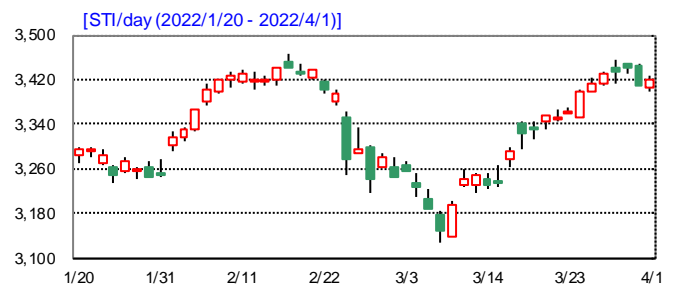


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 0.2%高、今週は 3 月製造業 PMI と 2 月小売売上高に期待

スレーツタイムズ指数は週間で 0.2%高と 4 週続伸。3 月月間では 5.1%高。先週は終値で終始 3400 ポイント台を維持した。週初の 28 日は、前週の勢いを引き継ぎ 4 営業日続伸。29 日も小幅に上値を広げると、30 日はロシアとウクライナの停戦交渉の進展に対する期待感から買われた。31 日はウクライナ情勢に対する先行き不透明感が再び高まった影響で 7 日ぶりに反落したが、1 日は外国人の入国に関する条件が大幅に緩和されたことなどが買い材料となり、反発して取引を終えている。今週は 4 日の取引終了後に 3 月の製造業 PMI、5 日に 2 月の小売売上高が発表される予定で、市場予想を上回れば好材料。

▼指数チャート

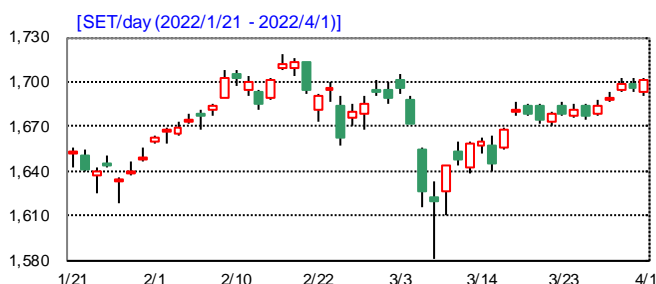


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.5%高、今週は 5 日に 3 月の CPI 発表

SET 指数は週間で 1.5%高と反発。3 月月間では 0.6%高。先週は週末に終値で 6 週間ぶりに 1700 ポイント台を回復した。週初の 28 日は、エネルギー株が指数上昇をけん引して反発。29 日はウクライナとロシアの和平交渉に対する期待感から買われると、30 日は中央銀行が定例の金融政策決定会合で今年の経済成長率見通しを下方修正したものの影響は軽微で、指数は続伸した。31 日はウクライナ情勢を巡る先行き不透明感の高まりを受けて反落したが、1 日は 3 月の企業信頼感指数が景況感の分岐点となる 50 ポイントに到達したことが好感され、反発して引けている。今週は 5 日に 3 月の CPI が発表される予定。

▼指数チャート

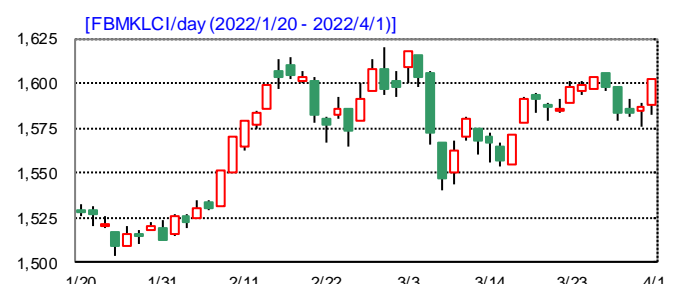


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.1%安、今週は 1600 ポイント台維持に期待

クアラルンプール総合指数は週間で 0.1%安と 3 週ぶりに小幅反落。3 月月間では 1.3%安。先週は週後半に買い戻されたが補えなかった。週初の 28 日は買い材料に乏しく 4 営業日ぶりに反落すると、29 日はペトロナス・ケミカルズ・グループやメイバンクなどの大型株に利益確定売りが出た影響で続落。30 日は前日からほぼ横ばいだったが、31 日は銀行株と消費関連株が買われた効果で 4 日ぶりに反発した。1 日は引け際の買いが奏功し、終値で 5 日ぶりに 1600 ポイント台を回復して取引を終えている。今週も国内の重要イベントが少なく、ウクライナ情勢や 6 日発表の米 FOMC 議事要旨が相場を左右する展開か。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。